法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

沖永良部島方言の文例

野原，三義

(出版者 / Publisher)
法政大学沖縄文化研究所
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
琉球の方言
(巻 / Volume)
7
(開始ページ / Start Page)
68
(終了ページ / End Page)
87
(発行年 / Year)
1982-11-05
(URL)
https://doi.org/10.15002/00012734

Hosei University Repository

沖永良部島方言の文例

野　原　三　義

I. 沖永良部島和泊町国頭方言の文例

この調査は1981年2月 9 日～11日に行った。インフォーマントは，中屋利常氏（1892年生）と今井吉光氏（1910年生）の両氏である。

ʔamaga　ʔidʒi　Φuːdi
お母さんが　行って　来いと
ʔidʒi　kitʃamu　　行って　来た
ʔidʒi　kitʃandoː　行って　来たよ
ʔuraga　ʔijusïwa　Φindʒimita
お前が　言うのは　うそ
ʔuriwa　mutʃikaʃanu　wattʃaniwa
それは　難しくて　我我には
dikiramu
出来ない
taroga　ʃusïwa　ʔitsïmu　warusadu
太郎が　するのは　いつも　悪いぞ
ʔaru
である
warusabeː　du　ʃuru
悪さばかりぞ　する（へたくそ）
ʔariga　あれが
ganʃi　takasanu　munu　koː inu
あんなに　高い物　買う
tʃunu　urukaja
人が　いるか
hoː rukajaː　買うかね
hoː iga　ʔikukaja　買いに　行くかね
hoː iga　ʔidʒakkajaː　買いに　行ったかな
natʃusa　mununu　judzai　ʃidu
泣き虫が　喧嘩してぞ
natʃarajaː
泣いただろう
ʔuΦutʃunu　tattʃusaː
大人が　立っているさ
ʔuΦumununu　natusaː
大　物の　なっているさ
matsïga　tʃibaranu　tʃurasanu
マツの　着物の　美しいなー
mundʒaː
ΦaΦui　羽織
ʔariga　ʔujawa　honujaː kara
あれの　親は　この間から
bjoː ki　ʃundoː jaː
病気しているよ
mitʃainu　muntʃaː nu　tʃuigadu　tutti
三人の者供の（内の）一人がぞ　取って
ʔaʃigaː
あるよ
juː tsïnu　tʃaː bannu　miː naː wa
四つの　茶わんの　一杯ずつはありぞ
ʔaidu　ʃuru
する
tiː tsïga　ʔuttu　ʃïː dza

Hosei University Repository

一歳の　弟　　兄（一歳違いの兄弟）
ti:tsï　miʃi:
一歳　　見せ（一歳おきの兄弟姉妹）
ʔaŋga　na:ni　ʔi:tʃi　ura　jaʃïga
あれの　中に　　入っているはず
Φuŋga　na:ni　ʔi:tʃunu　Φadʒï
これの　　中に　　入っているはず
jaʃïga
だが
ʔuŋga　na:ni　ʔi:tʃu　ʔuʃïga
それの　中に　入っているが
Φi:bi　　毎日毎日
mu:ruga　mu:ru　　全部が全部
ʔitsïmuga　ʔitsïmu　いつもが　いつも
çakujeŋga　muŋ　ho:ti　ho:raʃa
百円の　　物　　買って　　嬉しさ
ʃussa
しているよ
ʔaʃïbiga　ʔika:　遊びに　行こう
midzï　kumiga　ʔika:
　水　　汲みに　　行こう
Φatte:tʃi　ʔumu　tʃaiga　ʔika:
　　畑に　　いも　　堀りに　行こう
ʔippe:　tʃibarijo:　すごく　頑張れよ
ʔa:tʃibai　ʃïrijo:一生懸命　頑張れよ
ʔa:tʃibai　ʃï:　Φu:jo:
一生懸命　して　　来いよ
Φuditunu　maga:wa　大きい　孫よ
ʔuΦisanu　　〃　　〃　　〃
kʔwa:　子
Φi:sa:nuja:　寒いねー
ti:ga　Φirukūdī　miŋgaramu
手が　　しびれて　　握ぎられない
go:　きびを入れる歯車のかみ合う所
çe:sa　ni:gisanu　ʔumu　jaʃïga
早く　　煮えそうな　　いもだが
ni:guruʃanu　ʔumudʒa:
煮えにくい　　いもだ
satʃuʃïga　warantʃanu　uiti　na:ni
咲くけれども子供らが　　折ってしまって
nattʃi　tui　atʃike:　ʃïrarando:
　取り　　扱い　　出来ないよ
ʔubusanu　muŋ　mutʃi　kitʃaʃïgajo:
重い　　物　　持って　　来たよ
ʔubusa　ʔaʃïga　mutʃi　ʔikanumuna:
重いけれども　　持って　　行かないか
muŋ　kambuʃa　na:dana　atasïga
物　　食べたく　　なかったが
kadando:ja
食べたよ
kamimu〈食べる〉。ʔoiʃïri〈召し上がれ〉
ʔwani　muŋ　kamaʃijo:
豚に　　もの　　食わせよ
muŋ　kami　物　食へ（子供に）
muŋ　ʔoiʃïri　物　召し上がれ（目上に）
mu:kunu　ʔuja　ムーク（島名）の　親
mu:kunu　ʔatʃa　ムークの　父さん
昔は父さんのことを　ʔadʒa　と言った。ʔa—ma〈母さん〉。dʒa:dʒa:〈おじいさん〉。ʔaʃ̄i〈おばあさん〉。sanadʒi〈ふんどし〉。
kanimatsïnu　kʔwa:カネマツの　子（女の島名）
ʔamanu　tinugui　アマの　手拭
島名は大正ごろから無くなったという。
Φaʃ̄i　tudʒumu　箸　けずる
de:ʃi　tugi　竹で　とげ
saki　numimu　酒　飲む
darijami　sïra:　晩酌　しましょう
wa:　tsïra　mittʃumo:
私の　　顔　　見ているよ

Hosei University Repository

ʔurawa sadati ʔidʒuː rijoː
お前は 先に 行っておれよ
mitʃinti ʔoː tandoː jaː
道で 会ったよ
mitʃamu 見た
çiː nu ɸaː 木の 葉
tataminu ɸiː 畳の へり
ɸainu goː 針の 孔
ɸainu miː 〃
nabinu suku 鍋の 底
ɸaʃiːnu saŋ̄ 戸の 桟
matsïnu naː 火の 中
jaː nu ʔuʃu 家の 後
ʔagarinu dʒaː dʒaː 隣の じーさん
ʔagari 〈隣〉。ʔiː 〈隣〉。meː 〈前〉。ʔuʃu 〈後〉。ʔagari 〈東〉。ʔiː 〈西〉。ɸeː 〈南〉。ʔuʃu 〈北〉。
meː nu tudʒiutu むかいの 夫婦
tʃikasanu tʃuː 近くの人
kutʃiga miː 口の一杯
ʔuinu tʃuntʃa 上の人人
ʔari tarukaja あれ誰か
ʔagu 〈友〉。ʔasïbimu 〈遊ぶ〉。juː-mu 〈酔う〉。ʔutudʒa 〈いとこ〉。ʔutu-dʒantʃaː 〈いとこ達〉。
ʔaridu waː agu あれぞ 我が 友
juwainu tabigutu 祝の 度ごと
juwainu haː dʒi 〃
junnunu ʃima 与論の 島
tukunu ʃima 徳之島
ʔiː dʒima 沖縄
jambarunu ʃima 山原の島（＝沖縄）
kinjunu niː nu ʔuturuʃajaː
昨日の 地震の 恐かったことよ
junnunu goː buranu ʔmasa ʔataʃijaː
与論の かぼちゃの おいしかったことよ
waː kwaː nu kanimatsïga ʔuiti
我が 子の カニマツが 植えて
tsukuti andoː ja
作って あるんだよ
ʔagunu ʔamaga ɸeːsa ɸuːdi tʃa-ndoː ja
友の 母が 早く来いと 言ったよ
ʔaganʃi ɸanaguri ʔasïdusïga ju-dzai ʃundoː jaː
あんなに 遊んでいるが 喧嘩するよ
noimunnu ʔatuwa jaː hoː kanja
縫い物の 後は 家 掃かぬと
jaː nu jogorijundoː jaː
家の 汚れるよ
saki nudi juː ti ʔiːɸai ʃundoː ja
酒 飲んで 酔って 言いあいしているよ
tamuŋ waː tinu ʔatuwa nuː ʃuijoː
薪 割っての 後は 何するか
ʔittʃumu 行く
ʔitʃaga ʃura ʔikaŋga ara wakaran ja
行くか 為ら 行かぬが有ら 分からんね
nadʒetʃi ʔikukaja kaguʃimatʃi ʔi-kukajadi ʔitʃuː taʃiga hakkiri wa-karaʃigajoː ʔudaː tʃiga itʃura
名瀬へ 行くとか 鹿児島へ 行くとかと 言っていたが はっきり わからないよ どこへ 行くのかなー
nakajanu tʃakuʃi 中屋の 嫡子
ʔariwa nakajanukajaː tarukajaː

Hosei University Repository

あれは　中屋のかなー　誰かなー
me:nu　kwa:kaja:　前の　子かね
?ikutsïnu　kwa:kaja:
幾つの時の　子かね
?idʒu:nu　kwa:　二十才の時の　子
?antʃuwa　?udanu　tʃu:kaja:
あの人は　何処の　人かね
tʃinanu　tʃu　知名の　人
naΦanu　tʃu　那覇の　人
tʃibirunu　tʃu　喜美留の　人
wadumai〈和泊〉。ti:tʃa〈手手知名〉。niʃibaru〈西原〉。digi〈出花〉。?adʒiΦu〈畦布〉。ʃimadʒima〈島島〉。
ʃimanu　ja:kadzïkara　murotaŋ
シマの　家ごとから　もらった
?imiratti〈請求されて〉。?uka〈借金〉
?uka　habuti　借金　かぶって
?itʃaʃi　Φarorukaja:　どうして　払うかな
haninu　gutuʃi　Φidʒurusanu
鉄の　ように　冷たい
natsïnu　tʃu:nu　?amiranja:　kusa－
夏の　人の　浴びないと　臭くて
sanu　?urajun　ja:
おられないね
?asï　汗
?an　tʃunu　?uΦisaja:　ja:nu　te:
あの人の　大きさよ　家の丈
najuribanna:
なっているよ
watanu　jadijo:　腹が　痛いよ
ti:nu　darusa　jamiʃi:
手が　だるさ　痛いして
nudzuminu　?attʃusa　ari:
ねずみが　歩いているよ
tudʒinu　tʃundo:　妻が　来るよ
tʃumu　来る
munnu　wa:rijundo:　物が　煮えるよ
ni:jumu〈煮える〉。juka:mu〈良い〉
?uraga　ʃun　ʃikutʃiwa　nu:mu　ju－
お前がする　仕事は　何も　良
ka:mu
い
bo:dzï　ʃunu　ja:nu　warabinu
散髪　屋の　子供が
dʒi　jamatʃi　bo:dzï　surukaja:
足　痛まして　散髪するかなー
warorukaja:　笑うかな
hamaraʃaja:　やがましいね
wa:muŋ　私の　物
wa:ʃumutsï　私の　本
wa:ja:　私の　家
?ura　guʃani　お前の　杖
?aŋga　muŋ　あれが　物
?aŋga　tʃibara　あれが　着物
（以上，中屋利常さんより）

junnutʃi　Φaimu　与論へ　行く
junnutʃi　?ika:　与論へ　行こう
naΦani　?atanu　Φanaʃi
沖縄に　あった　話
çini　nu:tidu　?ikairu
船　乗ってぞ　行かれる
çiniʃi　?ika:　船で　行こう
?ma:ni　nuti　?ika:
馬に　乗って　行こう
?ma:〈馬〉。?usï〈臼〉。?uʃi〈牛〉
Φa:tʃi　tabori　借して　下さい

Hosei University Repository

ΦamatʃI ʔasïbiga ʔikaː
浜へ　遊びに　行こう
ʔamani ʔmjaːnu ʔumu
むこうに　猫が　いる
ʔamani ʔmjaːnu ʃusaareː
いるよ
ʔuminu ʔjoː dʒi nibutaŋ
海の　洞穴で　寝た
maː ni Φutʃinu Φugitijoː
そこに　フチが　開いてよ
Φutʃiː　水が入りこむ所
hoː̄　国頭のクラゴーのこと
Φatteːni jaseː ʔuiti amu
畑に　野菜　植えてある
Φuriwa Φatteːnidu ʔuiti ʔaru
これは　畑にぞ　植えて　ある
maː ni jiː　ここに　坐れ
mitʃini nibutuŋ
道に　寝ている
jamatutʃi ʔitʃumu　ヤマトへ　行く
nadʒettʃi ʔidʒi kitʃamu
名瀬へ　行って　来た
ʃoː roː tu ʃoː gatsuniwa jaː ttʃi
盆と　正月には　家に
mudurijoː
戻れよ
muduti Φuː joː　戻って　来い　よ
ʔamatʃi nagiraː 向こうに　投げよう
tʃinanu dʒittʃoːtʃi ʔidʒi kitʃamu
知名の　瀬利覚へ　行って　来た
ʃigututʃi ʔidʒamu　仕事へ　行った
ʔuratʃi hataraː　お前に　教えよう
tʃuni kuritamu　人に　くれた
miːni ʔibureːnu dikitijoː
目に　ものもらいが　出来ているよ

taːttijoː たかっているよ
Φeːsa ʔmoːriba ʔoiʃundoː
早く　いらっしゃったら　あげますよ
Φeːsa ʔmoːinu tʃuni ʔoiʃundo
〃　meːnu　〃　〃
早く　来られる人に　あげますよ
dʒaːdʒaːni ʔamarajundo
じーさんに　怒られるよ
Φuŋ warabiwa ʔujatu mittʃun jaː
この　子は　親と　似ている　ね
wattʃaː jaːwa gakkoːnu tʃikasado
私達の　家は　学校の　近くだよ
miːtʃini wakiraː ʔoinjaː ʃïraː
三つに　分けるなら　同じように分けよう
hanʃanu Φanaʃiwa ʔudaːnimu naː—
こんな　話は　どこにも　ない
nu Φadʒi jaʃïgā
はず　だが
watʃaniwa ʔaŋ 私達には　ある
wadumāinï ʔatanu hanaʃi
和泊に　あった　話
話者が ni ではないというので nï としたが，非常に ni に近い。
nïː　胸
tuːsakaradu kitʃandoː
遠くからぞ　来たんだぞ
hoːri tuːsakaradu kitʃandoː
ずっと　遠くからぞ　来たんだぞ
Φeːsakara 早くから
ʔikusainikara　小さい時から
ʔamakara tʃuʃïwa tarukaja
むこうから　来るのは　誰かね
ʔamakara meːʃïwa tarukaja
むこうから　来られるのは　誰かね
ʔaːtutʃikara juruntani Φataratʃun—

Hosei University Repository

朝から　夜まで　働くの
do: ja:
だよ
ʔa: tutʃi Φe:sakara waiwai ʃundo:
朝　早くから　わいわいしているよ
ʔatukara ʔitʃuntuni sada: tuti
後から　行くから　先になって
tabori
いらっしゃい
ʔatukara Φajuntuni sada: tuti
〃　行くから　〃
tabori
〃
Φajuntuni の代りに tʃu: ntuni〈来るから〉を用いてもよい。
ʃiʃikara kama 肉から　食べよう
satʃu: ʃikara tutitabori
咲いているのから　取って下さい
sakiwa Φumiʃibu tsukujuru
酒は　米でぞ　作る
satawa udʒiʃidu tsukujuru
砂糖は　きびでぞ　作る
jamatutʃiwa nu: ʃikara ʔitʃuijo:
ヤマトへは　何で　行くか
çinina:　船か
çinikarado:　船からだよ
jambaruni: ʃi tamum mutʃi kitʃa—
山原船　で　薪　持って　来た
ndo:
よ
ʔaʃiwa mitʃikara ʔatʃandja:
ばあさんは　道から　歩いていたよ
dʒa: dʒa: wa Φamakara ʔatʃando: ja
じいさんは　浜から　歩いていたよ
ʔammai tidani tirarutuwa niʃʃa—
余り　太陽に　照らされると　日射病
bjo: najundo:
なるぞ
ʃiʃiwa maʃiʃibe: ʔaraŋko: ʔabura—
肉は　真肉ばかり　ではなく　油肉
dʒiʃimu madʒiti ho: ti Φu: jo:
も　混ぜて　買って　来いよ
ʔinunaga ʔmja: naga mandi tʃika—
犬やら　猫やら　沢山　飼って
na: tundo: ja:
いるよ
ʔinukara ʔmja: kara mandi tʃika—
犬から　猫から　沢山　飼っ
na: tundo: ja
ているよ
ʔinumu ʔmja: mu mandi tʃikana: —
犬も　猫も　沢山　飼って
tundo: ja:
いるよ
ʔariga ʃundo: naruttuwa ʔutturuʃa
あれが　するぞ　なれば　恐ろしく
ʃundo:
するよ
ʔaraga ʔabitibu wakatando:
お前が　呼んでぞ　分かったよ
ʔuraga ʔabiguiʃidu wakatando:
お前の　呼び声でぞ　分かったよ
juigama〈ふるい〉。ʔnja: mudʒi〈小麦〉。ʔnja: mudʒime:〈小麦だけの飯〉。
ʔnja: mudʒige:〈小麦粉のかゆ〉
de: ʃi Φaʃi tsukura
竹で　箸　作ろう
nataʃi ʔi: tʃikititaborijo:
貴方方で　注意して下さいよ
tʃiburu jabi jasudundo:

Hosei University Repository

頭　痛くて　休んでいるよ
tʃiburu　jadi　nibutundo:
〃　〃　寝ているよ
tʃiburu　jadi　çe: tumudja:
〃　〃　休んでいるよ
na:　?itʃaʃuijo: dja:
もう　どうするかねー
nisentʃa　muruʃi　udutumudja:
青年達　皆で　踊っているよ
Φuŋ　ja: wa　tʃutʃitʃiʃi　tsukutan—
この　家は　一カ月で　作った
do: ja:
よ
mitʃitʃiʃiwa　naidu　ʃuru
三カ月では　なりぞ　する
ganʃi　dzattuʃiwa　dikirando: ja:
そんなに　簡単では　出来ないよ
?amaniti 向こうで。 jakubaniti 役場で。
ja: nitiwa　dikiraŋ 家では 出来ない
Φudiʃi　haka:　筆で　書こう
Φi: sanudu　jasudunnja:
寒くてぞ　休んでいるのですか
mu: ruʃi　ju: dzai　ʃi　kitʃamu
皆で　喧嘩　して　来た
Φi: sa　?aŋgara　wakarando: ja:
寒いかどうか　分からないぞ
?itʃikabe: ʃi　wa　naidu　ʃuru
五日ばかりでは　なりぞする
?itʃaha: ʃi　wa　narando: ja
どうでもこうでもでは　出来ないよ
tʃibiru　tu: ti　wadumaitʃi　?idʒamu
喜美留　通って　和泊に　行った
?amakara　tʃunu　ma: tʃi　tʃunugutu
向こうから　人が　ここへ　来るよう
?aŋ
にある
?uda: karaga　?itʃura　wakaramu
どこからが　行くら　分からん
?uda:　tu: ti　?itʃuŋgara　wakaramu
どこ　通って　行くのか　分からん
tʃ?u: nu　ja:　?ama: tʃi　?idʒi　ma:—
人の　家　向うへ　行き　ここ
tʃi　?idʒi　?aʃididu　?attʃumu
へ　行き　遊んでぞ　歩く
?ama: tʃi　?idʒja　ma: tʃi　?idʒaja
向うへ　行ったり　ここへ　行ったり
?aʃididu　?attʃuru
遊んでぞ　歩く
?ama:　Φuma:　?attʃi　?attʃi　?aʃi—
あっちこっち　歩き歩き　遊ん
didu　?attʃumu
でぞ　歩く
jama:　mo: ti　?attʃi　?aʃidi　?at—
山　廻って　歩いて　遊んで　歩
tʃumu
く
（以上，今井吉光氏より）

ja: ni　undo:　家に　いるよ
ja: ni　undo: ja:　〃　〃
umu　いるよ
ma: ni　ando: ja:　ここに　あるよ
Φatte: ni　jase:　uiti　ando: ja:
畑に　野菜　植えて　あるよ
mitʃini　nibutundo: ja 道に 寝ているよ
?urani　naro: ʃundo: ja
お前に　教えるよ
tʃu: ni　kuritando: ja:　人に　くれたよ
?adʒani　Φurusattando: ja:

Hosei University Repository

父さんに　たたかれたよ

ʔinuni　kwaːttaŋ　犬に　かまれたよ

Φuŋ　kwaːwa　ʔujatu　mitʃumu(ŋ)

この　子は　親と　似ている

warabinimu　wakajunugutuʃi　hata

子供にも　分かるように　教えなさ

rijoː jaː

いよ

miːtʃïni　wakiraː　三つに　分けよう

rokudʒini　ʔuitaŋ　六時に　起きた

ʔikusaini　sugurattijoː

小さい時に　殴られたよ

waga　nibutūini　ʔuiti　ʔidʒi　ʔu—

私が　寝てる時に　起きて　行って

ramudjaː

いないよ

jaːninu　saŋgatsuni　sakimui　ʃun—

来年の　三月に　結婚　する

doː ja

よ

結婚は　kekkoŋ と言うが，昔は　sakim—

ui とか　niːbitʃi と言った。

jei　ʃiːga　tʃura　kibara　kittʃi

祝　しに　清ら　着物　着て

ʔikanumunaː

行きましょうよ

kitʃi　ʔikoːkaː　着て　行こうね

kjuŋ　着る

ʔamini　nuriti　jaːtʃi　kitʃandoːjaː

雨に　濡れて　家に　来たぞ

ʔariwa　ʃittʃusïga　wantʃi　hataramu

あれは　知ってるが　私に　教えない

ʔariwa　muwa　ʔatti　ʔasïga　wantʃi

あれは　知ってるが　私に

hataramu

教えない

tuimu　ʔaΦirumu　mandundojaː

鶏も　家鴨も　沢山いるよ

goːburani　ʃibuini　jasïwa　hoːra—

南瓜に　冬瓜に　野菜は　買わない

dzïnaː

か

jasï の ï は，ë の方に近い音と思えたが，今は ï にする。　ʔuːdi　かぶ

hoːraŋkajaː　買いませんか

ʔamanimu　maːnimu　mandi　undoː—

向うにも　ここにも　沢山ある

jaː

よ

taroːjoːka　dʒiroːgadu　dikijun—

太郎より　次郎がぞ　出来るの

doːjaː

だよ

taroːjoːka　dʒiroːdu　dikijundoː—

太郎より　次郎ぞ　出来るのだよ

jaː

ʃi̥ʃijoːka　ʔjuːwa　takasamu

肉より　魚は　高い

Φurijoːka　ʔariwa　Φurusandoːjaː

これより　あれは　古いのだよ

Φujujoːka　natsïdu　jukaːŋ

冬より　夏ぞ　よい

ʔurajoːka　Φukaniwa　urandoːjaː

お前より　外には　いないよ

ʔarijoːka　ʔuΦisanu　munuwa　ura—

あれより　大きい　者は　いな

ndoːjaː

いよ

waŋjoːka　Φukaniwa　ʃunutʃuwa

私より　外には　する人は

Hosei University Repository

urando: ja:
いないよ
wa: ʃuku ʃuru munwa urando: ja:
私くらい　する　者は　いないよ
taro: tu sakimui ʃando: ja:
太郎と　結婚　したよ
dʒiro: tu judzei ʃando: ja:
次郎と　喧嘩　したよ
ʔagutu ʔidʒando: ja:　友と　行ったよ
ʔuratuwa ba: do: ja:　お前とは　嫌だよ
mukaʃitu namawa kawati undo: ja:
昔と　今は　変わって　いるよ
tuʃijuitu junumundu jaribanna:
年寄と　同じぞ　であるね
tuʃiwa sïdza janumunnu warabitu
歳は　上だのに　子供と
judzai ʃunnja:
喧嘩　するか
ʔiʃatu ʔasa　かまきりと　せみ
nabitu hama　鍋と　釜
Φunitu ho: natuti ʃigariti miru
骨と　皮　なって　痩せて　見る
dzama na: ribanna:
かげも　ないなー
sutumiti me: ʃï kabando: ja:
朝　朝御飯　食べたよ
ji:〈夕御飯〉。ʔaʃï:〈昼御飯〉
Φe: be: tu gaŋ Φe: sa Φu: rataro:
早ばやと　こんなに　早く　こられたねー
ʔuΦi ʔuΦi: tunu tʃudu jatando: ja:
大　大としている　人ぞ　だったよ
Φum me: wa birasa ʃi ma: sa as
この御飯は　軟らかくて　おいしい
aja:
ねー
Φanaguri〈悪戯遊び〉。birasa〈軟らかい〉
matsïginaga tsïburagi: naga mui-
松やら　カジマルやら　生えて
tussa:
いるよ
カジマルのことを，今は gadʒimaru というが，昔は tsïburagi: とか ΦituΦitugi: と言った。
ʔikukaja ʔikaŋkaja: ʔumutunumu-
行こうか　行かんか　思っているの
nnu ʔidʒi ʔasaja:
に　行って　あるよ
udakaja　どこか
ʔitʃajo:　どうか
nu: gane:　何か
ʔitʃaʃikaja:　どうしてか
tarujo:　誰か
ʔikutsï jo:　幾つか
ʔitʃate: ʃuijo:　いくらか
ʔitʃigane:　いつか
ʔudun jo:　どれか
uda: nukaja:　どこのか
ʔitʃasa: be: jo:　いくらぐらいか
ʔitʃaʃui jo:　どうするか
ʔitʃaʃi warabi nakaʃui jo:
どうして　子童　泣かすか
ʔudatʃi Φajuijo:　どこへ　行くか
dʒi: hatʃi urukaja:
字　書いて　いるのかなー
hattʃumu　書く
taruga tʃurasa aŋgane:
誰が　きれいかな
kaŋge: ti urukaja:　考えて　いるかね
kaŋge: ti ga ura　考えているのだろうか

Hosei University Repository

ʔuragadu ʃi aʃiga お前がぞ してあるが
ʔuragadu ʃi aru 〃 してある
kusanudu muituʃiga
草がぞ 生えているが
tʃikkeːʃidu jaru Φaŋgijunu munuwa
使うのぞ である 捨てる 物は
arandoː jaː
あらぬよ
ganʃanu kutumu ʃuweː
そんな ことも やるか
dʒiːdu hattʃi uru 字ぞ 書いて いる
taruga tʃurasa arukajaː
誰が 美しさ あるかな
ʔariwa tʃurasa asajaː
あれは 美しさ あるねー
Φisadu ʔaru 寒さぞ である
Φisadu ʔandoː jaː 〃 であるよ
wadumaitʃidu jaru 和泊へぞ である
wadumaitʃidu itʃundoː jaː
和泊へぞ 行くのだよ
ʔumudu kamiru いもぞ 食べている
ʔumudu kadondojaː 〃 食べているよ
tʃaːdu numiru 茶ぞ 飲んでいる
tʃaːdu numiru aʃa 〃 飲んでいるよ
tʃaːdu nudondoː 〃 〃
tʃaːdu nudondoː jaː 〃飲んでいるんだよ
ʔaʃididu uru 遊んでぞ いる
waːmundu jaru 私の物ぞ である
imaisaŋga jataraja:
今井さんで あったかね
imaisandu jatakʔajaː
今井さんぞ であったかなー
ʔuraniwa dikirandoː jaː
お前には 出来ないよ
ʔariniwa dikiga ʃura
あれには 出来るだろうか
ʔariniwa dikidu ʃuru
〃 出来ぞ する
ʔamiwa Φurandoː 雨は 降らないよ
ʔinuniwa kamajusïga ʔmjaniwa
犬には かまれるが 猫には
kamaraŋgaraʃaŋ
かまれないよう
udʒiwa ʔmasa amu きびは 甘い
udʒiwa ʔmasa andoː ja 〃 甘いよ
Φuduwa ʔuΦisaŋ 程は 大きい
Φuduwa ʔuΦisa aʃiga takiwa ta—
程は 重いが 丈は 高
kaku naːmu
く ない
ʃïgituwa ʃidandoːjaː 仕事は 済んだよ
Φiruwa ʔatsa aʃiga jiruwa Φiː—
昼は 暑いが 夜は 寒
sanu
くて
naːbeːraːwa ʔmasa aʃïga nidʒa—
糸瓜は おいしいが 苦瓜
goiwa nidʒasanu
は 苦くて
joːʃawa joːʃa ai tʃïburuwa tʃï—
ひもじさは ひもじいし 頭は 頭
buru jadi nuːmu ʃirarandoːjaː
痛いし 何も 出来ないよ
çimma niːbuiʃiː 昼寝(なんか)して
(なんだ)
hoːiʃïjoːka duːʃi tsukuti ka—
買うのより 自分で 作って 食べ
manumuŋ
ればよいものを

Hosei University Repository

kamijoː　食べろよ

ʔinujoːka　ʔmjaːwa　jukandoːjaː

犬より　猫は　よいよ

kamiʃiga　jukaamu 食べるのが　よい

kamiʃidu　maʃin　jaru

食べるのぞ　まし　である

kamiʃiwa　maʃi　食べるのは（方が）　よい

nibujusïdu　jukwaːru 眠る方がぞ　よい

nibujusïwa　maʃi　眠る方は（が）　まし

jadʒiwa　kusasa　ati　jukanaːmu

山羊は　臭くて　よくない

jadʒiwa　hadza　ʃunti　jukanaːmu

〃　臭い　して　〃

ʔwaːwa　jukaːmu　豚は　よい

jadʒiwa　hadza　ʃi　kusasantuni

山羊は　臭いして　くさいから

ʔwaːwa　jukaːmu

豚は　よい

ʔiʃogaʃa　atimu　jaːdʒi　mitʃi　iki

忙しくても　家で　見ていきなさい

digiwa　ʔudaːganeː　出花は　どこかね

taru　joː，dʒiroːnaː

誰　か，　次郎　か

natawa　tarudirujoː

貴方は　誰ですか

wane　jamadoːjaː　私は　ヤマですよ

gandironaː　ああそうか

ganʃanu　kutu　ʃïː　ʔurawa　suŋ　ʃï—

そんな　こと　して　お前は　損　し

radzëː

ないか

ʔudun　joː，　ʔura　munwa

どれ　か　お前の　物は

nuːwa　ʔura　mun　joː

何は　お前の　物　か

habiwa　naːdzeː　紙は　ないか

tʃʔubiwa　naːdzeː　帯は　ないか

tʃʔubi は tʃʔibi ともいう。今は ʔubi という。

namawa　今は

suiwa　naːdzëː　かみそりは　ないか

tʃimuwa 肝は。tʃimū。

tʃimu　naːnu　munaː　〈肝が無いねー。物忘れした場合に言う〉

Φujuwa　Φiːsa　amu　冬は　寒い

kʔwaːmui　〈おんぶ〉。gadʒamuŋ〈蚊〉。jamagadʒamuŋ，ʔuΦugadʒamuŋ〈大きい蚊〉。gadʒamuŋgawaː〈小さい蚊〉

ʔura　Φuiwa　お前の　声は

ʔibiwa　〈海老は〉

ʔibī は ʔuminu　wari　〈海のワリ〉で取った。tʃintʃo〈井戸〉

ʔura　mummu　wakarukajaː

お前の　物も　分かるかね

ʔuraga　wakarukajaː お前が　分かるか

tannimu　wakarukajaː

誰にも　分かるかな（分からんだろうなあ）

kusanu　kamarukajaː 草が　食えるか

kusamu　kamarukajaː草も　〃

Φaːnu　jameː　歯がも　痛いか

Φaːmu　jameː　〃　〃

Φaːmu　jaminnjaː〃　〃

（以上，中屋利常氏より）

ʔadʒawa　çuːmu　ʃigututʃi　ʔidʒaŋ

父さんは　今日も　仕事へ　行った

ʔadʒawa　çuːmu　ʃigututʃi　ʔitʃabutan

〃　〃　〃　いらっしゃ

djaː

ったよ

Hosei University Repository

父のことを昔は ʔadʒa と言った。次いで
ʔatʃa になり，今は ʔotoː と言う。

ʔujahoː 目上

tuʃi tuti tʃiburu ɸagitumu
年 取って 頭 禿げている

miminu tuː sa nati tʃiburumu ɸa—
耳が 遠く なって 頭も 禿
gitaŋ
げた

nidʒagoimu nabiara(ː)mu natumu
苦瓜も 糸瓜も なっている

ʔidʒimu ʔikaŋkomu ʃimimu
行っても 行かなくても よい

ʔidʒimu ʔikaŋkomu ʃimindoː jaː
〃 〃 いいよ

ʔidʒimu ʔikadanamu ʃimimu
〃 〃 よい

tʃiburumu jamii watamu jamii naː
頭も 痛いし 腹も 痛いし もう
itʃamu narandjaː
どうにも ならないよ

kadimu kadimu ʔitʃaː saːmu ka—
食っても 食っても いくらでも 食
miŋ
う

kadimu kadimu jubidiramu
〃 〃 食べあきない

jubaitʃeːru もう沢山だ

ʔitʃaː ʃïratimu natʃumu
どう されても 泣く

nuːnimu ɸuinimu natʃumu
何にも かにも 泣く

dʒoːmu ʔaroːmu ʔidʒirandoː jaː
門も 外も 出ないよ

dʒoːtʃimu ʔaːroːtʃimu ʔidʒiraŋ
門へも 外へも 出ない

ʔa(ː)roː 〈自分が家の中にいる場合，庭
など家の外を言う)

jaːmu nagarasu ɸudunu ʔuturuʃanu
家も 流がす 程の 恐ろしい

ʔuːami du jatamu
大雨 ぞ であった

ʔattsaːmu ʔariba hadzïmu turi—
暑くも あれば 風も 凪れ
tumu
ている

turitijo 凪れているよ

hadzïnu naːmu 風が 無い

juka jirudoː よい 夜だ

turijumu 凪れる

ʔaŋ warabiwa ʔatʃiku surutu dʒaː—
あの 子供は かけっこすると じ
dʒaː taːnimu meːjundoː
ーさん達にも 負けるよ

ʔikusanu kutuwa taruːmu atjaŋ
戦の ことは 誰も 知っている

ʔikusanu kutuwa tarugamu atjaŋ
〃 〃 誰もが 〃

ʔikusanu kutuwa taru jatimu at—
〃 〃 誰でも 知っ
jaŋ
ている

tarumu ʔati ʔaidu ʃuru
誰も あて ありぞ する

ʔurani ɸaːʃunu dʒiŋwa ʔaʃïga
お前に 貸す 銭は あるが
kurijunu dʒiŋwa naːmu
くれる 銭は ない

ʔaːtʃibai ʃi tumetaʃiga ʔudanimu
一生懸命で 捜したが どこにも

Hosei University Repository

ʔuradana ʔatamu
いなかった
muʃo:ni 一生懸命
ja:niwa tarumu ʔuradana ʔatamu
家には 誰も いなかった
ju: ganʃi gasana:mu kamajunu
ようこんなに 沢山 食えるもの
mun ja:
だね
unagu jaʃiga sïrajunu mun jiŋ—
女 であるが 出来るもの 男
gadi ʃuti sïraradzïna:
で あって 出来ないのか
unagu damari sïrajunu mun jiŋ—
女 さえ 出来るのに 男で
gadi ʃuti sïraradzïna:
ありながら 出来ないのか
ʔuranidamari ʃïrainu muŋ wanni
お前にさえ 出来るのに 私に
ʃïraranu kutuwa na:mu
出来ない ことは ない
ʔuradamari ʃïrainu muŋ wanni
お前さえ 出来るのに 私に
ʃïraranu kutuwa na:mu
出来ない ことは ない
hatʃunu muntʃu naŋgi:na:
書く ものさえ 無いのか
ʔuraga ʔatʃikusukaja
お前が 歩いていけるだろうか
ʔuraga ʔitʃikusukaja
〃 行けるだろうか
ʔitʃikusando: 行ききれないよ
to:ka be: mo:rjan ʃuru
十日ばかり いてください
ʔikki be: na: buraŋkaja:
一斤ばかり でないでしょうか
wan jatimu najumu 私でも 出来る
wan jatimu ʔuriwa naidu ʃuru
私 でも それは なりぞ する
wan jasïga naidu ʃuru
私 でも できぞ する
tarudaʃiga ʔura kaŋge:ntʃu ʃira—
頼んだが お前 考えようとも しな
madze:
いでしょうが
ʔitʃa:ma jatimu 少しでも
ʔuridu ʔuŋkasuttuwa tadaʃi:wa
それぞ 動かしたら ただでは
ukando:ja:
おかぬよ
dʒo:kara ʔi:tʃi itʃuʃi mitʃan
門から 入って 行くの 見た
tukiniwa hanara:dzï ʔaidzu ʃirijo:
時には 必らず 合図 しなさいよ
ʔuraga ʔitʃiʃe:ka ʃïriba dikidu
お前が 行きさえ すれば 出来ぞ
ʃuru
する
ju:dze: ʃi:wa ʃaʃiga ganʃigadiwa
喧嘩 しは したが そんなにまでは
(ʔammai gadi) ɸago:sa ʃi:kurinna
余り まで にくんで くれるな
nibuttiwa utaʃiga ʔatiwa ʔaidu
寝ては いたが あては ありぞ
ʃuru muru turattaŋ
する 全部 取られた
ʔujajadʒi 〈親山羊〉。kwajadʒi 〈子山羊〉。jadʒigwa:〈小山羊〉
nidʒagoiwa nattunnja:
苦瓜は なっているか

Hosei University Repository

nidʒagoidakiwa ʔarando: ja: ɸiʃ—
苦瓜だけは あらぬよ 夕顔
ʃo:mu nabijaramu natundo: ja:
も 糸瓜も なっているよ
ɸiʃʃo: 魚釣りの浮袋の変わりにした
ʔaganʃanu munni me: junnja
あれくらいの 者に 負けるか
ʔarigure:nu munni me: junnja
〃 〃 〃
ʔariniwa me: rando
あれには 負けないよ
çi:tʃimu nuraradze:
木にも 登れない
çi:tʃintʃumu nuikusadze:
木にでさえ 登りきれないのか
turaʃuʃi guraiwa dikijumu
取らすの くらいは 出来る
ʔikimuʃidu jaʃiga ʔati ʔando:ja:
動物ぞ であるが あて あるよ
ʔitʃa:ʃimu ha:ʃimu ʃiranja: na—
どうしても こうしても せんと い
rando: ja:
かんよ
mi:nu karitimu ʃiranja: narado:—
身が 枯れても せんと いかんよ
ja:
〈どうしてもやらんといかん〉ということ。
nibutube:du ʔidʒijuru
根太ばかりぞ 出ている
ʔitsï:mu tʃa:be:du nuduru
いつも 茶ばかりぞ 飲んでいる
ʔiʃʃo:ni いつも
ʔaʃidibe:du urutu baka nataja
遊んでばかりぞ いると 馬鹿 なったり
ɸurimun najundo:
狂者 なるぞ
du:nu numinu mum be: ʔiriti
自分の 飲む 物 ばかり 入れて
wa:me:wa ʔiriraŋko:ʃi:
私の物は 入れんようにして
natsïni natantu nidʒagoinaga na—
夏に なったから 苦瓜とか 糸瓜
bijara:nagadu kadundo:
とかぞ 食べているよ
dʒa:dʒa:wa saki be: du ʔoiʃuru
じいさんは 酒ばかりぞ 召しあがっている
warusanu mum be: du nuko:turu
悪い 物 ばかりぞ 残っている
ma: be: wa ʔaraŋko:ni ʔutʃani:—
ここばかりは できないで 君らの所に
tʃimu kitʃi:na:
も 来ていたか
ʔura 〈君〉。 ʔutʃa 〈君ら〉。 nata
〈あなた〉。 natata: 〈あなた方〉
ʔari tʃuintʃa nuko:tʃi ja:nu banu
あれ 一人だけ 残して 家の 番
ʃimijuŋgi:na
させるのか
sambjakkiŋbe: ka:inu ʔwa:du ja—
三百斤ばかり かかる 豚ぞ であっ
taru
た
tuʃimu godʒu: be: du jatamaraŋ—
年も 五十ばかりぞ でなかった
kaja:
かなー
jutai be: du jataru
四人ばかりぞ である
tomejuŋ 捜す
tomeriba tomeraidu ʃuru

Hosei University Repository

捜せば　捜せぞ　する
?itʃi:nt?ani matʃimu Φu:dana at—
いつまで　待っても　来なかっ
amu
た
na:tʃantaniwa matʃi kuriri
明日までは　待って　くれ
na:tʃantaniwa matʃuti tabori
〃　待ってください
godʒint?ani Φataraka: 五時まで　働こ
う
mitʃikara ?atʃunu tʃu(:)gadi Φur—
道から　歩く　人まで　たた
uʃumudido:ja:
くそうだよ
?uttunigadi nakasattijo:
弟にまで　泣かされてよ
?ikusa ʃutan tukiwa nu:mu Φui—
戦　していた　時は　何も　かも
mu kadando:ja:
食べた　よ
ma:kara ?ama:tʃi ?ika
ここから　向うへ　行こう
ma:kara muko:nt?ani ?ika:
〃　向うまで　行こう
?a:tutʃikara jirunt?ani Φataraka:
朝から　晩まで　働こう
nu:kara Φuimadi muttʃi ?idʒamu
何から　何まで　持って　行った
madi の代りに nt?ani を用いてもよいが
gadi はだめとのこと
nu:mu Φuimu muttʃi ?idʒamu
何も　かも　持って　行った
hakiba hatʃamadidu jaʃiga hakamu
書けば　書いたまでぞ　であるが　書かぬ
hakiba jaʃïmundu jaʃiga wana
書けば　簡単ぞ　であるが　私は
hakando:
書かんぞ
?itʃasana: ?ataijo
いくらずつ　当たるか
mi:tʃina: ?atajundo: 三つずつ　当た
るよ
tatido:ja: 同じ年だよ
kambuʃa ariba ?itʃasana:mu ?ando:
食べたければ　いくらずつでも　あるよ
mi:tʃi be: na: ?ataindo:ja:
三つばかりずつ　あたるよ
?oho:sa hatamirutu darijundo:
沢山　担ぐと　疲れるよ
?nje: na: hatamirijo: 少しずつ　担
げよ
tʃ?i:Φi:dʒu: na:wa hatarakaran—
一日中　ずつは　働けな
do:ja:
いよ
taro:ga gutuʃiwa tarumu Φatara—
太郎のようには　誰も　働
karando:ja:
けないよ
?itʃasa: baka natutimu ?ujatʃiwa
いくら　馬鹿　なっていても　親へは
rambo:wa ʃïrando:ja:
乱暴　しないよ
?atu ?itʃasa be: nukoti uijo:
後　いくらばかり　残って　いるか
ju:ti utimu du:nu ja:wa wa—
酔って　いても　自分の　家は　分か
kairu ʃuru
りぞ　する

Hosei University Repository

tʃa jatimu ʔoiʃiː tabori
茶 でも 召し上がりなさい
tabakunaga ʔoiʃïri 煙草でも 召し上がれ
tabakunaː ʃita ʔoiʃïri
煙草 でも 召し上がれ
tʃuːwa ʃiːmu ʔarigawa ʃurandoː
人は しても あれがは しないよ
nuːka kaminu mun jatimu maŋ—
何か 食べる もの でも ない
kajaː
かね
koinaga hatamiti ʔudatʃi ɸajuijoː
鍬など 担いで 何処へ 行くのか
sakinaga numutu sawagaʃisa na—
酒など 飲むと さわがしく な
jumu
る
sakinaga numutu hamaraʃa najundoː
〃 〃 かしましく なるよ
taroː ɸurusuttuwa naramu
太郎 たたくのは いけません
（以上，今井吉光氏より）

Ⅱ. 和泊町和方言の文例

以下の調査は1981年2月11日に前(ススメ)久茂（1902年生）氏より行った。

waga mjuŋ̄ 私が 見る
ʔitʃaʃi wanu mjuː jō
どうして 私を 見るか
waː muŋ̄ 私の 物
ʔura muŋ̄ 君の 物
nata muŋ̄ 貴方の 物
wagaː tsukuinu kutu ʃiri
私が 作るように せよ
wagaː tsukuinu kutu ʃinʃoːri
〃 しなさい
〃 ʃiː tabori
〃 してください
mitʃinti ʔaʃidi ʔuːʃiːdu waː—
道で 遊んで いるのぞ 私の
kwaː
子
wunagu damari dikijunu mun ji—
女 さえ 出来るのに 男
ŋganu dikiranu hadʒinu ʔannja
が 出来ない はずが あるか
ɸuːtʃuːkaja warabikaja mandi
大人やら 子供やら 沢山
ʔuŋ
いる
joːne wa çiːsanu mjaːtʃiwa ʔi—
夕方は 寒くて 庭へは 出
dʒiraraŋ
られない
ʔaro dʒi ɸuʃi 外で 干せ
sutuː̄〈外〉。ʔitʃuŋ̄〈行く〉
ʔunitʃiwa ʔidʒaʃiga nuːmu tuti
海へは 行ったが 何も 取って
ɸuŋ
来ない
ʔunitʃi ʔitʃigatʃana hatteni koi
海へ 行きながら 畑に 肥料
hatamiti ʔidʒaŋ
担いで 行った
waː wadumai 和 和泊
ʔakaradʒi meburaru アカタジ 和泊
ʔakatadʒi tuːti tʃibirutʃi ʔitʃuŋ
アカタジ 通って 喜美留へ 行く

Hosei University Repository

kinju kitʃaŋ 昨日 来た
kinju tʃa: butaŋ 〃 来ました
kinjudu kitʃaru 昨日ぞ 来た
munudu kaduru ものぞ 食べている
?ura: ?udatʃijo: お前 どこへか
〃 ?udatʃi ?itʃujo お前 どこへ行くか
?uraga kamadana ?atimu waga:
お前が 食べなくても 私が
kamiŋ
食べる
?uraga kamannja waga: kamindo:
お前が 食べんと 私が 食べるぞ
?itʃa: ʃiroka ?uraga ʃuŋgane
どう しようが 君の する通り
?urawa ?itʃunnja ?ikadʒina
お前は 行くか 行かないか
natawa ?menʃennja ?menʃoradʒina
貴方は いらっしゃるか いらっしゃらないか
?atuni ?ura tʃuī nokoinnja
後に 君 一人 残るか
nu: di tʃimu ?urawa tʃikanu wa—
何と 言っても 君は 聞かぬ 子
rabija
供だ
?anu ja: tʃi ?idʒimu tʃu: wa ?u—
あの 家へ 行っても 人は いな
ranu hadʒi
い はず
sa: re:, ja: ni menʃaburo: kaja
もしもし, 家に いらっしゃいますか
?ja: ?ja: 男に対する呼びかけの言葉
?e: ?e: 女 〃
natawa ?udatʃi ?menʃabujo
貴方は どこへ いらっしゃるか

?ariwa nibuti be: du ?u: ru
あれは 寝てばかりぞ いる
?ariga kuriwa wakajuŋ
あれが 来れば 分かる
?ariga tumeti ?u:ʃiwa ?udurukaja
あれが 捜して いるのは どれか
〃 〃 〃 tarukaja
〃 〃 〃 誰か
?aganʃiwa wanuniwa ʃiraraŋ
あのようには 私には 出来ない
?ariwa ja: ni ?uiga ʃura
あれは 家に いるかしら
?ariwa tʃitʃunu ?againtane hatte:
あれは 月の 上がるまで 畑
tʃa: ti ?u: mu
耕して いる
?itʃaʃi ?aganʃi jowa: sa ?arokaja
どうして あんなに 弱さ あるか
nama ?ikiwa ma: ni ?o: juŋ
今 行けば 間に あう
〃 〃 〃 ?o: juʃiga
〃 〃 〃 あうが
ganʃuntuni ki: tʃikiridi ?jussa
だから 気 つけろと 言うのだよ
?itʃumudi ?itʃutaŋ 行くと 言っていた
?itʃuŋgara wakaramudi ?itʃutaŋ
行くか 分からんと 言っていた
ɸunu tʃu: この 人
?anu tʃu: あの 人
?unu tʃu: その 人
?uduru tʃu: どの 人
?anu tʃu: wa ?udakara kitʃaŋkaja
あの 人は どこから 来たのか
〃 〃 〃 kitʃanu
〃 〃 〃 来た

Hosei University Repository

tʃuː kaja
人か
ʔanu tʃuːwa saki beː du nuduru
あの 人は 酒ばかりぞ 飲んでいる
taruni kwaːʃi kuritijo
誰に 菓子 くれたか
tarutu juːdʒe ʃiː jo
誰と 喧嘩 したか
tarujokamu çeː sa Φuː jo
誰よりも 早く 来いよ
taruga ʃaː nu ʃikutʃikaja jaː
誰が した 仕事か ね
taruga ʃaŋkaja 誰が したかね
jabutanu tʃuːwa tarujo
破った 人は 誰か
jaː ni ʔuːʃiwa tandarujo
家に いるのは 誰誰か
wanu 私
watʃa muŋ 私達の 物
〃 jaː 〃 家
ʔura 君
ʔuːtʃa 君達
nata 貴方
natata 貴方がた
watʃamu ʔubani nuibuʃajaː
我我も くり船に 乗りたいなー
ʔuːtʃawa munuçindʒi ʃinnajoː
君らは うそ するなよー
ʔamani ʔuːʃiwa tarutajo
向うに いるのは 誰らか
Φunu tʃuntʃa この 人達
ʔanu tʃuntʃa あの 〃
ʔunu tʃuntʃa その 〃
ʔudanu tʃuntʃa どの 〃
Φuntagadu ʃaː ru
これらがぞ してある
ʔanta あれら
ʔunta それら
taruta だれら
Φunu muŋ この 者
ʔunu muŋ その 者
ʔanu muŋ あの 者
ʔuduru muŋ どの 者
ʔudomuŋ こいつら
Φunu warotawa この 悪者らは
ʔunu 〃 その 〃
ʔanu 〃 あの 〃
ʔuduru warotaga ʔitʃijo
どの 悪者らが 言ったか
Φuritu Φurituwa ʔuduruga jasajo
これと これとは どちらが 安いか
Φurintʃu wakaranu munnu nuːnu
これさえ 分からないのに 何が
wakaijo
分かるか
nudinu jadi tʃaːmu numaramudjaː
のどが 痛くて 茶も 飲めないよ
〃 〃 tʃaːntʃu 〃
〃 〃 茶さえ 〃
Φuridakiwa muttʃi Φuːjoːjaː
これだけは 持って 来いよね
mindʒiru hoːti Φuːdi ʔjattamu
人参 買って 来いと 言われた
djaː
よ
Φuisaʃiwa gadʒimaru ʔikusaʃiwa
大きいのは ガジマル 小さいのは
hadʒigi
ユーナ
ʔuri ʔatimu Φunagirutu kurakaindoː

Hosei University Repository

それ　でも　捨てると　殴られるぞ
?aridu junnu あれぞ 与論
?arina ɸurina ?udurujoː
あれか　これか　どれか
ɸutomunnu nuː di ?juː jo
悪者が　何と　言うか
（のくせに）
maː ni ?aː jeː ここに あるか
naː ʧanu çitumitintane mattʃitabori
明日の　朝　まで　待ってください
wadomarikara ɸugumintane ?itʃuŋ
和泊から　小米まで　行く
mamu ?amamu duː dunaː djaː
ここも　向うも　親戚　だ
〃　〃　duː dunaː nati ?uː—
〃　〃　親戚　なっている
mu
?amamu waː hatte 向うも 私の 畑
ɸunu ʃigutuwa nariranu munu ja—
この　仕事は　慣れないから
ntuni dariːn jaː
疲　る　ね
?unu ʧibarawa nuːʃi tsukuti
その　着物は　何で　作って
?arokajaː
あるか
?anu ?juːwa ɸukaː garamu wakaraŋ
あの　魚は　鱶かも　分からん
?anujoː ?uːʧawa ?udanu maŋgura
あのね　君らは　どのへん
?idʒijoː
行ったの

Ⅲ．知名町瀬利覚方言の文例

以下の調査は1980年3月，1981年2月に瀬戸口ミツ（1904年生）氏より行った。

tiːnu watani ?uiti ɸudujaʧanu
手の　掌の上で　育てた
?maːgadoˇja
孫だよ
ʧimba ʃuːnu ʧuː びっこ する 人
kimuni ?muːtunu kutuwa ?iːjoː
心に　思っている　事は　言えよ
çibugaʃinu ʃiː ʧikutjaŋ
蜘蛛が　巣　作ってある
?mmu beː du kamjuru
いもばかりぞ　食べる
〃　〃　kamjuŋ
〃　〃　食べる
mimugui kamjuŋ 三回 食べる
makinu ?wa 豚小屋の 豚
ʧuːkani ʧaː keːri 急須に 茶 入
れよ
tuːnaːninu ?idʒiti ?uninu ?ari—
トー波が　出て　海が　荒れる
juŋgara wakaraŋ
か　分からん
çuːwa çiːdʒu ?aʃidaŋ
今日は　一日中　遊んだ
t?umitiwa gohaŋga ?maːku naːŋ
朝は　御飯が　おいしく　ない
t?umitikara çimant?ani ɸarutʃi
朝から　昼間まで　畑に
?ikjuŋ
行く
joːnet?aːni urijo 夕方まで おれよ
joːne miːgatʃaːna ɸuːjoː
夕方　見ながら　来なさいね
jirumu ?aʃibiŋgatʃaːna ɸuːjoː
夜も　遊びながら　来なさいね

Hosei University Repository

çuː nu t?umiti kitʃaʃiga ?ura
今日の 朝 来たが お前
?uradana ataŋ
いなかった
joː ne çikjatutamu djaː
夕方 光っていた よ
tʃiçiː dʒu kaː taŋ 一日中 かかった
natʃiwa ?atʃasaŋ 夏は 暑い
?neː wa nukumoiŋkja kekkoʃiki
少しは 温もってから 結婚式
ʃuŋ
する
ʃidʒuː kunu ?maː ri duʃi
49歳の 生まれ 歳
miː t?iː tʃi waga kamjuŋ
3分の1 私が 食べる
mansawaki tʃi kamajaː
平等に分けて 食べようね
kuŋgetʃi ?ikjuŋ 国頭へ 行く
waː dumeː tʃi ?ikjuŋ 和泊へ 行く
joː newa çiː sanu sututʃiwa ?idʒi—
夕方は 寒くて 外には 出ら
raraŋ
れない
?uraː ?udatʃi joː お前は どこへか
?uraga kamaŋkja waː gaː kamjundo
君が 食べんと 私が 食べるぞ
?uraː ?ikjunnja ?ikadzï
お前 行くか 行かんか
natawa ?udatʃi diroː joː
貴方は どこへですか
?ariwa nibuti beː du ?uː ru
あれは 寝てばかりぞ いる
?ariga gutiwa wanuwa ʃiraraŋ
あれの ようには 私は 出来ない

tʃikjunu ?agajunt?ane ɸate kjattuŋ
月が 上がるまで 畑 耕している
nataga ?menʃotʃi hoː raʃa ?ajabuŋ
貴方が 来られて 嬉しさ ございます
?urigassa muttʃi ɸuːjoː
これだけは 持って 来いよ
〃 〃 moː ri
〃 〃 いらっしゃい
nibutubeː ?idʒijuŋ
根太ばかり 出ている
?juː hoː ti ɸuːdi ?juː taŋ
魚 買って 来いと 言っていた
?juː hoː tuː di ?juː taŋ
魚 買って来いと 言っていた
t?umitikara joːnent?ane ɸatara—
朝から 晩まで 働く
kju {mu / ŋ
sakiwa nuː ʃi tʃukujuŋkaja
酒は 何で 作るかね